



3学期が始まりました。今年は1月7日と成人の日の連休が繋がっているため子供たちの冬休みが長くなりましたが、みんな元気に過ごせたでしょうか。また、子供たちと元気いっぱい3学期が始められることが何より嬉しいことです。12月は新型コロナウイルスの感染者が減少し、少し明るい兆しが見えてきたところなのに、また、新型の変異株の出現と感染者の急増で、まだ油断を許さない状況が継続されます。

そんな中ですが、幼稚園では最大限子供たちの安全に留意しながら、出来るだけ多くの体験をし、楽しい園生活が送れるよう職員一同努力していきたくて考えています。

今年もどうぞよろしくお祈りします。

始業式(整列しています)⇒



小学校1年生はゼロからのスタートではない

鳩山幼稚園長 岡部 玲子

ある冬の寒い日に、幼稚園の水たまりで氷が張っているところと張っていないところがあるのを不思議に思った5歳児たちが、帰りがけにバケツに水を入れ、思い思いの場所に置きました。

冷え込んだ翌朝、一人の園児が登園するなり一目散に一つのバケツへと向かい「あれっ」という声をあげます。しばらく考え込んでいたその子は「そうか」とつぶやき、続けて「だったら」と言って別のバケツへと向かいました。そして、「やっぱり」と叫び、ニンマリと微笑んだのです。

最初のバケツに向かうとき、この子の中には氷ができる原理についての理論的説明が仮説としてあり、そこから特定のバケツの水に関する予想が導き出されていたのでしょう。ところが、予想に反してバケツの水は凍っていませんでした。この事実を踏まえ、この子は理論の修正を試みます。そして、修正された理論を検証すべく向かった別のバケツの中に予想通りの結果を見出し、ニンマリとしたに違いありません。

条件制御や系統的観察といった科学の方法論は、理科を中心に小学校3年生から段階的に指導します。その完成はかなり先、中学卒業くらいの時期になるでしょう。しかし、その萌芽はすでに5歳児に獲得されていて、巧妙に繰り出されてさえているのです。

【幼児教育じほう 2022 1月号 論説 「資質・能力を基盤としたこれからの幼少接続」(上智大 奈須教授)より抜粋】

上記の論説の子供が何を思って「ニンマリと微笑んだ」かは、読み手の私たちの想像の域を出ませんが、この子供の「水から氷になる」という変化を発見した後の行動や思いを、この論説の筆者は小・中学校の「理科」に繋げていました。

冬の朝のこのような光景は、鳩山幼稚園でもよく見られます。冷え込んだ朝、登園バスから降り園庭のバケツに張った氷を見つけて、大喜びで先生や友達を呼びに行く。氷を触ってその冷たさに驚く。氷が透明なのに気づく。降園のバスに乗る前に、みんなで色を付けた水や落ち葉や山茶花の花びらを入れた水を園庭のあちこちに置いて帰る。翌日の朝、色水の氷や落ち葉や花びらの入った氷を見て、子供なりの様々な思いを達成し満足する。この思いの中には理科的繋がりだけでなく、きれいだなあ、もっと色々な物を入れて氷を作ってみたいなあという、ストレートな感動を持つ子もいるでしょうし、氷に関係するお話を思い出す子もいるかもしれません。この冬の朝の氷の話は一例で、園の活動の中でこのような事例は無限にあります。

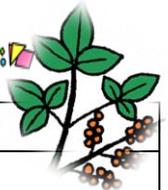
私は小学校に長く勤務し、退職後、縁あって鳩山幼稚園でお世話になっていますが、幼稚園に来て気づいた事の一つに、園での活動の多くが小学校での教科等の学習に繋がっていることです。生活科・総合的な学習はもちろん、音楽、国語、算数、理科、社会などの基となる「見方や考え方」を働かせているように感じました。小学校ではいかにこの小さな「見方や考え方」を生かして学習を進めていくかが大切なのではないかと感じました。

幼稚園の教育の中で培われてきたこの「見方や考え方」が小学校で引き継がれ、育ってくれることを、就学を3ヶ月後に控え、子供たちや小学校に期待し楽しみにしています。

*2学期の終業式に「お手伝い・読書・元気に過ごす」の3つの冬休みの宿題を出しました。

どうだったでしょうか？ 子供たちの自己評価は3つ全部◎でした。素晴らしいですね。

活動の流れ <1月>



| 時期 | さくら組 | にじ組 |
|------|--|---|
| 1月中旬 | 始業式に参加する。 ・まゆ玉団子のいわれを知り、まゆ玉だんごを作って飾る。 ・お正月の遊びをする。カルタ・凧揚げ等 ・防火避難訓練に参加する。 | 始業式に参加する。 ・まゆ玉団子のいわれを知り、まゆ玉だんごを作って飾る。 ・お正月の遊びをする。カルタ・凧揚げ等 ・防火避難訓練に参加する。 ・こま回し大会に参加する。 |
| 下旬 | ・こま回し大会に参加する。 ・節分に向けて鬼のお面を製作する。 | 友だちと見せ合ったり、競争したりする。 さくら組に年長組のこま回しを見せる。 ・節分に向けて鬼の被り物を製作する。 |



<3 学期始業式のお話・・・11日に話しました。みんなよく聞けました。>

3学期になると通常の楽しい活動と共に『卒園』を意識した準備を並行して行っています。

○自分の名前が書けるよう練習します。

日常の取り組みの中で子供たちは自然に「文字」に興味・関心を持ってきているのを感じます。3学期は卒園アルバム用ににじ組は自分の名前が書けるよう練習をします。

○返事は「はい」を意識させていきたいと考えています。

今まででも少しずつ取り組んできていますので、一斉指導の中ではかなりしっかりと「はい」の返事が出来ますが、個々の場面ではやはり「うん」が多いです。大人に対して「いつでも、どこでも、だれにでも」の「はい」の返事はなかなか難しいと思いますが、少しずつ取り組んでいきたいと思います。

(我が子に「返事は『はい』だよ。」と伝えてくださるお家の方もいて有り難いです。)

○廊下は走らない。

これは私が小学校現場にいたとき、よく学校の「生活目標」としていた文言です。本園の子供たちも廊下をよく走っています。時々、子供同士で、「ろうかをはしらないんだよ!」と言っている声が聞こえます。小学校では廊下は走りません。どうして廊下を走ってはいけないのか、理由が分かっている子も多いのですが、つい夢中になって走ってしまうのかもしれない。これからも根気強く身に付けさせていきたいと思います。

これらのことはすぐに身につくものではありません。ご家庭でのご理解・ご協力もよろしくお願いします。

卒園まであと3ヶ月、様々な製作や卒園式練習、行事等ある中ですが、小学校との接続を視野に入れつつ、幼稚園として子供たちが安心して小学校へ行けるよう、幼・小での連絡等も行っています。また、1月末に面談もありますが、何か心配なことがありましたら、さくら組・にじ組問わず、幼稚園までご連絡ください。

2学期の保護者会にお渡しした県から出されている「3つのめばえ」を再度お家の方が目を通してもらえると良いかと思えます。

<11日(始業式)の午後、来年の新規入園者の説明会がありました>

入園説明会



来年度の入園予定者は11名です。3歳の誕生日を迎えた時点で保育料が無償となり、他市町の幼稚園に行く子も多い中、1年待ってくれ、満4歳になって鳩山幼稚園に入園させようと思ってくれる方が、まだ11名いるということを心から嬉しく思います。

私たち鳩山幼稚園の職員は、教育者であるという誇りを持って、今、在園している子供たち、そしてこれから入園してくる子供たちの、「豊かでたくましい心身の成長」のために、これからも全力で教育活動にあたっていきます。

- *パンジーの鉢は1月25日(火)のこま回し大会の日に幼稚園に来る際、各保護者の方がお持ちください。
- *園で作った野菜の「ひとこと感想」を提出してもらえると嬉しいです。感想は「食育」の観点で活用させていただきます。